2024　年度 授業計画(シラバス)

学　科	作業療法士学科	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義実習
科目名	体表解剖学Ⅰ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	1年	学期及び曜時限	前期　金2・3・4	教室名	5F機能訓練・治療室
担当教員	田中 将士、本家 寛文	実務経験とその関連資格	作業療法士として身体障害領域・老年期障害領域で機能解剖学的アプローチを行ってきた。		

《授業科目における学習内容》

作業療法において、対象者の作業・課題遂行上の問題を明確化・解釈して原因を推察していく一連の臨床思考過程には、ヒトの身体・運動機能の理解、運動・動作の分析的視点、異常運動を見極める観察眼やその原因を分析する思考力が必要であり、人体の形態・構造・機能に関する運動学的知識が必須となる。この科目では具体的に、臨床で得られる情報をできるだけ正確にするための触診の仕方について考えながら、上肢における体表からの機能解剖学的な触診技術を学び、運動学の基礎となる解剖学的理解を深めていく。

《成績評価の方法と基準》

期末試験(筆記試験65%、実技試験31%(小テスト4%)、平常点(態度・準備)4%で評定する。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

■教科書: 運動療法のための　機能解剖学的触診技術―上肢［改訂第2版］(メジカルビュー社)、
プロメテウス　解剖学アトラス　解剖学総論／運動器系［第3版］(医学書院)
イラスト解剖学［第10版］(中外医学社)

《授業外における学習方法》

基本的に次の通り。
事前学習(30分) 教科書を読み、該当箇所のプロメテウス内容を確認しておく。
事後学習(30分) 資料整理と復習。該当箇所のプロメテウス内容を再確認。触診方法を復習し、家族・友人で練習する。

《履修に当たっての留意点》

・ 次回学習内容に予め目を通しておくこと。　・ 学習は予習よりも復習をしっかり行い、不明点がないようにしていくこと。
・ 体の中の目に見えない部分、触診部の構造・走行などを理解していくこと。　・アプリ「ヒューマン・アナトミー・アトラス」の使用推奨。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	①基本的立位肢位と解剖学的立位肢位、運動の面・軸・方向について説明できる。②臥位・座位・膝立ち位・立位でのいくつかの姿勢について、表し方を述べられる。	教科書 配布資料	【事前学習】シラバスを読んでおく。(30分) 【事後学習】資料・プロメテウスなどを確認し、触診方法を復習する。(30分)
		各コマにおける授業予定	**オリエンテーション** 触診とは？―この科目で学習する触診の到達度評価と触診の基本について確認する。触診課題の振り分けを行い、各グループで学習する。		
第2回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	③骨縁・骨隆起部・溝部・関節部・筋肉・深層筋に適切な触れ方で触れることができる。④上肢の骨と筋を触診により同定し、説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】学習内容に目を通しておく。(30分) 【事後学習】資料・プロメテウスなどを確認し、触診方法を復習する。(30分)
		各コマにおける授業予定	**肩甲骨、鎖骨** 肩甲骨・鎖骨の触診を学習し、実習を通して理解を深める。		
第3回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	③骨縁・骨隆起部・溝部・関節部・筋肉・深層筋に適切な触れ方で触れることができる。④上肢の骨と筋を触診により同定し、説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】学習内容に目を通しておく。(30分) 【事後学習】資料・プロメテウスなどを確認し、触診方法を復習する。(30分)
		各コマにおける授業予定	**上腕骨** 上腕骨の触診を学習し、実習を通して理解を深める。		
第4回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	③骨縁・骨隆起部・溝部・関節部・筋肉・深層筋に適切な触れ方で触れることができる。④上肢の骨と筋を触診により同定し、説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】学習内容に目を通しておく。(30分) 【事後学習】資料・プロメテウスなどを確認し、触診方法を復習する。(30分)
		各コマにおける授業予定	**橈骨、尺骨** 橈骨・尺骨の触診を学習し、実習を通して理解を深める。		
第5回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	③骨縁・骨隆起部・溝部・関節部・筋肉・深層筋に適切な触れ方で触れることができる。④上肢の骨と筋を触診により同定し、説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】学習内容に目を通しておく。(30分) 【事後学習】資料・プロメテウスなどを確認し、触診方法を復習する。(30分)
		各コマにおける授業予定	**手根骨、指骨** 手根骨・指骨の触診を学習し、実習を通して理解を深める。		

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	③骨縁・骨隆起部・溝部・関節部・筋肉・深層筋に適切な触れ方で触れることができる。④上肢の骨と筋を触診により同定し、説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】学習内容に目を通しておく。(30分) 【事後学習】資料・プロメテウスなどを確認し、触診方法を復習する。(30分)
		各コマにおける授業予定	**肩甲上腕関節の関連筋** 肩甲上腕関節の関連筋の触診を学習し、実習を通して理解を深める。		
第7回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	③骨縁・骨隆起部・溝部・関節部・筋肉・深層筋に適切な触れ方で触れることができる。④上肢の骨と筋を触診により同定し、説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】学習内容に目を通しておく。(30分) 【事後学習】資料・プロメテウスなどを確認し、触診方法を復習する。(30分)
		各コマにおける授業予定	**肩甲上腕関節の関連筋** 肩甲上腕関節の関連筋の触診を学習し、実習を通して理解を深める。		
第8回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	③骨縁・骨隆起部・溝部・関節部・筋肉・深層筋に適切な触れ方で触れることができる。④上肢の骨と筋を触診により同定し、説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】学習内容に目を通しておく。(30分) 【事後学習】資料・プロメテウスなどを確認し、触診方法を復習する。(30分)
		各コマにおける授業予定	**肩甲上腕関節・肩甲胸郭関節の関連筋** 肩甲上腕関節・肩甲胸郭関節の関連筋の触診を学習し、実習を通して理解を深める。		
第9回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	③骨縁・骨隆起部・溝部・関節部・筋肉・深層筋に適切な触れ方で触れることができる。④上肢の骨と筋を触診により同定し、説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】学習内容に目を通しておく。(30分) 【事後学習】資料・プロメテウスなどを確認し、触診方法を復習する。(30分)
		各コマにおける授業予定	**肩甲胸郭関節の関連筋** 肩甲胸郭関節の関連筋の触診を学習し、実習を通して理解を深める。		
第10回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	③骨縁・骨隆起部・溝部・関節部・筋肉・深層筋に適切な触れ方で触れることができる。④上肢の骨と筋を触診により同定し、説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】学習内容に目を通しておく。(30分) 【事後学習】資料・プロメテウスなどを確認し、触診方法を復習する。(30分)
		各コマにおける授業予定	**肘関節の関連筋** 肘関節の関連筋の触診を学習し、実習を通して理解を深める。		
第11回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	③骨縁・骨隆起部・溝部・関節部・筋肉・深層筋に適切な触れ方で触れることができる。④上肢の骨と筋を触診により同定し、説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】学習内容に目を通しておく。(30分) 【事後学習】資料・プロメテウスなどを確認し、触診方法を復習する。(30分)
		各コマにおける授業予定	**肘関節・前腕(橈尺関節)の関連筋** 肘関節・前腕(橈尺関節)の関連筋の触診を学習し、実習を通して理解を深める。		
第12回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	③骨縁・骨隆起部・溝部・関節部・筋肉・深層筋に適切な触れ方で触れることができる。④上肢の骨と筋を触診により同定し、説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】学習内容に目を通しておく。(30分) 【事後学習】資料・プロメテウスなどを確認し、触診方法を復習する。(30分)
		各コマにおける授業予定	**手関節の関連筋** 手関節の関連筋の触診を学習し、実習を通して理解を深める。		
第13回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	③骨縁・骨隆起部・溝部・関節部・筋肉・深層筋に適切な触れ方で触れることができる。④上肢の骨と筋を触診により同定し、説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】学習内容に目を通しておく。(30分) 【事後学習】資料・プロメテウスなどを確認し、触診方法を復習する。(30分)
		各コマにおける授業予定	**手指(外在筋)の関連筋** 手指(外在筋)の関連筋の触診を学習し、実習を通して理解を深める。		
第14回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	③骨縁・骨隆起部・溝部・関節部・筋肉・深層筋に適切な触れ方で触れることができる。④上肢の骨と筋を触診により同定し、説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】学習内容に目を通しておく。(30分) 【事後学習】資料・プロメテウスなどを確認し、触診方法を復習する。(30分)
		各コマにおける授業予定	**手指(内在筋)の関連筋** 手指(内在筋)の関連筋の触診を学習し、実習を通して理解を深める。		
第15回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	目標①～④	教科書 配布資料	【事前・事後学習】期末試験に向けた総復習を行う。(60分)
		各コマにおける授業予定	**まとめ、総復習** 期末試験・実技試験に向けて、これまでの総復習を行う。		